

編集後記

本誌8月号の特集は、岡山済生会総合病院整形外科今谷潤也先生の企画による「Complex elbow instabilityの治療の現状」である。緻密な洞察と鋭い分析眼に定評のある今谷先生らしく、解剖や生体力学の詳細な解説に多くのスペースを割き、更に手術アプローチも詳しく解説した上で、この難解な障害に対する専門家間における病態認識の微妙な差異や、その結果として生ずる治療戦略の違いも見事に炙り出しており、極めて読み応えのある特集記事となっている。

しかし、このタイトルを目にした際、おそらく大半の整形外科医は“elbow instability”という一般には馴染みのない呼称に多少戸惑い、更にcomplexとはいかなる状態かと訝しく感じるのではなかろうか。そもそも肘不安定性の研究史は極めてユニークかつ意外なものである。肘関節は内外側に主要靱帯構造を有し、それぞれがかなり複雑な構造をしている。靱帯とは骨と骨を直接つなぐ支持組織の総称であるが、起始・停止が明瞭な内側側副靱帯に対し、外側側副靱帯はその大半が輪状靱帯に停止する非定型的な構造を取り、このため歴史的には内側を主要な安定化機構とみなす傾向にあり、それまでの多くのバイオメカニクス研究もこの考えを概ね支持していた。そんな中、1991年にMayo ClinicのO'Driscollにより習慣性肘関節亜脱臼・脱臼の大半は後外側回旋不安定性の形をとり、原因は外側側副靱帯、より具体的には尺骨に直接停止する成分の破綻にあるとの報告がなされ、それを引き金に外傷後の肘不安定症の病態に関する大論争が学会内に巻き起こった。O'Driscollにより指摘された靱帯構造は極めて不明瞭かつ菲薄なものであり、解剖でも存在を確認できないケースが多数存在したため、彼の説が広く受

け入れられるまでにそれなりの時間を要した。そんな中 Massachusetts General Hospital の Ring により 2001 年には terrible triad injury と命名された極めて不安定な肘脱臼骨折パターンが報告され、主要靱帯の停止部である coronoid fracture の治療上の重要性が俄かに注目されることになった。しかし、症例が集積されるに従い実際の terrible triad injury にみられる coronoid fracture はバイオメカニクス研究から不安定性には寄与しないとされる比較的小規模なものが大半を占めることが明らかとなり、complex elbow instability の病態に関する議論は再び混沌としてきている。この特集では多くの読者に elbow instability の研究に携わる研究者の熱気もぜひ感じ取ってほしい。

最後に、今後の本誌『整形・災害外科』の編集に大きな変化をもたらすであろう2つの出来事を読者の皆様にお知らせしたい。一つ目は、かねてより希望の多かったオンライン投稿システムがついに本誌でも導入されたことである。これにより論文投稿への心的ハードルが少しなりとも下がったものと確信している。従来の郵送での投稿受付も行っているのので、ご事情に合わせ、いずれかの方法を選択いただければ幸いである。

二つ目は、九州大学の中島康晴先生が本誌の編集主幹に新たに加わったことである。本年3月に飯田寛和教授が編集主幹を満期退任され、股関節分野の人材確保が望まれていた。中島先生は昨年10月に九州大学整形外科第7代教授に就任され、今後本邦の股関節外科を背負って立つ若きリーダーであり、きっと本誌を更に発展させ、また、新たな可能性も引き出していただけのものと大いに期待している。

(平田 仁)

「整形・災害外科」第60巻 第9号（8月号） 2017年8月1日発行（毎月1回1日発行） 定価（本体2,500円＋税） 年間購読料金 定価（本体39,400円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 福田商店 TEL 06 (6941) 5600
--	--

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、二次的著作物の利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <（社）出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。